

『注文の多い料理店』授業記録(4/14時)

- T 今まで学習してきたことを見てください。(これまでの注文の掲示を示しながら) 白い方が(表)黄色い方が(裏)というように注文を整理してきました。よいよ今日から(味付け)の注文に入りますね。このところ(板書にある注文 を指しながら)を書いていきましたね。注文 について書いてくれた人(数人が挙手)、注文 (2・3名が挙手)を書いてくれた人、注文 を書いてくれた人(半数以上が挙げる)。結構注文によって数が違うみたいだけど、それでは今日の場面を読む前にそれぞれの山猫の思いを発表してもらいたいと思います。今まだ書いていない人もいいですよ。
- C クリームをよく塗ってもらわないと味が整わないなあ
- C クリームを塗らなくちゃ、好みの味にならないよ。
- C すっかり塗ってくれるかな。全部塗ってくれる方がおいしいからな。
- T ちょっと待って、今すっかりと言ったけど、すっかりってどういうこと。
- C たくさん。
- C よく。
- C 全部、全て。
- T (すっかりの横に書き込む)
- T それでは、書いていない人も考えて発表していいよ。
- C ちゃんと塗ってくれなきゃ困るな。
- C ちゃんと全部塗ってくれなきゃおいしくないもんな。
- C あの2人は耳に塗らなかつたから、耳の部分がおしくなくなる。
- T 塗らなかつた2人を見てこの注文を書いたんですね。
- C はい。
- T そうだよな。注文を聞かなかつた様子を見て書き足したんだね。
- C 塗り残しがあつたら食欲が失せる。
- C クリームは耳には塗らないからな。
- T 塗らないから何?
- C だからよく塗ってほしいな。
- T 念を押したんだね。
- C 耳にも塗つたらおいしさが増す。
- T はい、そしたらいきましょうか。みんながたくさん手を挙げてくれた注文 。
- C 香水を振りかけなかつたらどうしよう。
- T と言うことはちょっと不安って言うこと?
- C そう、不安
- C クリームを塗って、香水のような酢を塗つたらおいしそう。
- T と言うことは と の合わせ技ね。
- C 香水を塗ってにおいを良くすれば、クリームを塗っていたからちょうどいい。組み合わせが良くなる。
- T これもさっきの合わせ技ですね。すぐにこう考えることができるのがすごい。
- C ぼくも合わせ技で、より味が増す。
- C ずいぶん注文を書いてきたからな。すぐにできますと書こう。
- T なるほどね。たくさん今まで多かつたから、安心させる。
- T はい、いいでしょう。これが注文を書くときの思い。ここここで紳士の言動からを発表してもらおうと思つたけど、これは後に取っておこう。注文 のところで思う存分発表してもらいます。それではよいよ注文 が終わって の注文に入ろう

と思うのですが、なぜ先生が注文 だけ話しているか分かる？同じ味付けの注文だけど、なぜ離してるのかな。

- C 味付けの注文をどんどんして、これが最後の注文だから。
- C 頭や顔だけだったけど、今度は体中というところが違う。
- C これまでの注文は2人の紳士が言うことを聞いてきたけど、今度の注文だけは言うことを聞かずにばれてしまったから。
- C 他の味付けの注文のことを求めている。
- T さあ、それではこのことも考えながら、今日の場面を読んでほしいと思います。その前に確認しますよ。これまでの注文は金文字だったり、黄色だったりしたけど今度の注文は？
- C 大きな文字、目立つように、一番目立つように、最後だから。
- T 今回は注文を書く前の思いを書いてから、紳士の言動を見てを書いたけど、今度は逆で、この注文の後、紳士のことばや行動からまず山猫の気持ちを考えてほしいと思います。それでは教科書を読みますよ。注文は先生が読みますから、地の文を読んでくれる人（はい）、紳士1（はい）紳士2（はい）それでは他の人は線を引ながらよ。それでは読みます。「その裏側には大きな・・・見合わせました」ちょっと待って。今線を引いた人？えらいえらい。はい続けて「・・・動きませんでした」
- T はい、ありがとうございました。それでは今からいつものようにワークシートを配りたいと思います。
- C 今日ワークシートが違う。
- T いつも違うの。レベルアップやけんね。
- T それでは今日は逆パターンやけん、よく聞いとってね。（ワークシートの書き方を説明する）今日はいつもだったらワークシートの右側から書くんだけど、今日は違う。紳士の言動を見て山猫はどんなことを考えただろう、ここだな。ここから書いていく。今まで書いてきたように紳士の言動を表すことばを書いて、そこから矢印を引いて、そのときの気持ちを書く。こんな気持ちになったということからワークシートに書いてください。いいでしょうか。それではどうぞ。時間は一応7分くらいを考えています。
- C （ワークシートに書く）
- T 書きかけの人はそれでいいから、考えたことを発表してください。それではどうぞ。
- C たくさんの注文は向こうがこっちに注文しているんだよから、もう気付いてしまったよ。もう少しで食べられると思ったのに。
- C 来た人を食べるというところから、危ない何とかしなくちゃ、親分に怒られてしまう。
- T 親分から怒られてしまうというのは、次の場面から導き出したんだね。
- C 2人ともぎょっとしてから、もう今更遅いよ。もうすぐ料理になるんだよ。
- C がたがたがたがた震えだし、もうものが言えませんでしたから、今頃気付きやがった、でももう遅い。ここは俺たちのとなりの部屋だ。すぐではないが食べられる楽しみだな。
- T がたがたがたがた震えだしはどっちかな、2回書いてあるね。そのことば両方かな。
- C ぎょっとして顔を見合わせているから、びくびくしているぜ。2人とも気付くのが遅すぎるんだよ。今頃気づいてももう遅いよ。
- C 西洋料理にして食べてやるうちから、やばい見付かってしまった。でも絶対食べて

やる。

- C 後ろの戸を押そうとしたから、戸を押しても逃げられないようにしてあるのに。
- C 西洋料理にして食べてやるから、やばいばれちゃった。でももう逃げられないよ。
- T はいいですよ。いい意見がたくさん出ました。ところでなぜここに注文はばれちゃったの、なぜ紳士に気付かれたの。
- C 変な注文が多すぎたからだと思います。
- T ということは変な注文が積み重なっているってこと？この注文 でいうといろいろ注文が多くてというところかな。
- C お気の毒でした。
- T お気の毒でしたと書いたらばれるやろう。
- C 相手を馬鹿にしているみたい。
- C もうこれだけです。
- T もうこれだけですと書いたらばれる？
- C ばれそう。
- C つぼの中の塩をたくさんよくもみこんでください。
- T つぼの中の塩をたくさんよくもみこんでくださいというところではれると思う人は手を挙げてください。(かなりの人数が挙げる)
- T 今日すでに25分くらい過ぎているんですが、今日の学習はこれからなんです。(学習のめあて を板書する)
- 「注文 にかくされた山猫の気持ちを考えよう」
- T そしたら、ばれてしまった、どんな気持ちでこの注文を書いたのか、いつもと逆パターンですね。どうしてこの注文を書いたのか書いてほしいと思うけど。書けそうな人？(半数が挙手)、ちょっとやばいって言う人？(半数が挙手)そうか、注文の多い料理店の最初の授業のとき、先生何か聞いたことがあるよね。山猫は、
- C 本当に食べるつもりだったのか。
- T そうそう食べるつもりだったのか、食べるつもりはなかったのか、みんなは半分半分だったよね。それをちょっと生かしましょう。これを書くときに山猫がいったいどんなことを考えながら書いたのか、書いてみてください。これまでがんばって書いてきたから最後の注文ですから。書けない人は途中で先生がヒントをあげるから書いてみましょう。
- C (ワークシートを書く)
- T 今まで通りに山猫になって書いた方が書きやすいよ。
- T いいですか。それではどうぞ。
- C ここまで書いてもだまされるかなあ。
- C もうこれだけですと書けばだまされるだろう。
- C ついに最後の注文の部屋に来たぞ。後もう少しで久しぶりに人間の肉を腹一杯食べられる。塩をたくさんもみ込んでサラダにしたらおいしいだろうな。
- C 最後の最後でばれるような事を書いてやろう。そのときの2人の驚く顔が楽しみだ。本当は食べたくないが、2人の泣きわめくところを一目見てみたい。
- C こんな山の中まで君たちは来てくれた。しかもここまで注文を出してきたけど、全部やってくれた。お願いだから最後の注文も聞いてくれ。
- T ちょっと待ってね。今こうして見てみると2つに分かれたね。最後まで聞いてくれ、食べられると書いた人、手を挙げてみてくれる？(半数以上が手を挙げる)驚かせるのが楽しみだ、食べるつもりはないと考えた人は？(10名程度が手を挙げる)
- T ここで考えてもらいたいのは、食べない、驚かす、食べるつもりで書いたのか、驚

かすつもりで書いたのか、

- C 食べるつもりに手を挙げました。83ページの「どっちでもいいよ・・・」から食べるつもりだと考えました。
- T なるほど、そのことばかり分かるね。最後の場面にいっちゃったけどそこから確かに分かるよね。
- C それなら85ページの「早くいらっしい、親方が・・・」からも食べるつもりだと言うことが分かる。
- C 今の意見についてだけど、それは脅かすためのせりふではないんですか。
- C 食べないの方で「いらっしい、いらっしい・・・」食べるつもりなら呼ばないで連れて行く方がいいのではないですか。
- T 連れて行かなかったということは食べるつもりがなかったということ？
- C 私は食べるつもりだったと思います。85ページの「よぼうか、よぼう。お客さんがた・・・お皿もあらってありますし、菜っ葉ももうよく塩でもんでおきました」からそれが分かります。
- C そんなことを言ったら入ってこないんじゃないですか。
- T なるほどね。
- C 逃げ道がないから入ってくる。
- C 付け加えて、もう逃げ道がなくて、後ろの戸をおしても、戸は一分も動きませんでしたというところから、逃げ道がなく前の戸に行くしかないからそう思います。
- T なかなかおもしろい話し合いになってきた。次の時間に回したいけど。
- C 先生、先生。さっきの意見に対して。逃げ道がないからこそ、もっと紳士は驚くと思います。
- T 逃げ道をなくしたことで、紳士の驚きがもっとももっと大きくなるということですね。この話は延々と続きそうね。最後までどうしても言いたい？(4名が挙手)
- C 食べないにしました。85ページの「中では、フッフッと笑って、またさげんでいます」で、笑っているのはがたがた震えているのを笑っているからです。
- C さっき入って来ないと言ったけど、入ってこなかったら脅かせない。
- C 86ページの「部屋はけむりのように消え・・・」というところではやは部屋は幻覚で、塩などを塗り込むのも幻覚で、そう感ただけなので、実際になったことではないので食べるつもりはなかったと思います。
- C 食べるつもりだと思います。逃げ道がないのでどうしても入ってこなかったらそこから出て食べられると思ったからです。
- C 幻覚といいましたけど、最後のページの「しかし、さっき紙くずのように・・・もう元のとおりになおりませんでした」とあるので、すべてが幻覚ではなかったと思います。
- T もう、先生もんながそこまで考えていてくれるのなら満足。
- C それは実際に起こっていないことを見ていて、その影響で顔が戻らなくなったんだと思います。
- T 実は先生も最後の文章を読もうと思っていました。(最後の文章を読む)ここ。このこと(食べるつもり、脅かすつもり)を考えることで、どうしてお湯に入ってももう元のとおりになおらなかったのか考えることは作者が最後になぞかけのところですね。そこを次の時間に考えていきますよ。ところでさこれまで学習した中でこれはばれそうだなと思う注文はなかった？これちょっとと思うものはなかった。
- C 4番、2番、6, 8
- T もう1回言ってみて

- C 2、4、6、8。分かった分かった。
- C 裏が分かりやすい。
- C ということは裏の注文は親方が書いたやつ。
- T 親方が書いたの？
- C 83ページに「親方の書きようがまずんだ・・・」とあるから親方が裏をかいている。
- T 分かった、分かった。表と裏の注文は全然違う。これも使ってさっき言った、どうして顔が治らなかったのかを考えてきましょう。